

テーマ名

「組合事業の活性化について」

中小零細運送事業社が生残りをかけ事業の開路を探す
邑智トラック事業協同組合の事業活性化の取組について

駒川 きよみ
邑智トラック事業協同組合
主 事（中小企業組合士）

(要 旨)

中国山地の山深い風光明媚な島根県邑智郡と、隣接する江津市桜江町の地域、人口わずか26,300人足らずのところに「わが地域に関係する荷物は自分たちの手で」という気概に燃えた運送屋の事業協同組合がある。この地域は降雪が深く、江川太郎と名づけられる大河「江の川」が山の稜線を取り巻くように流れ、時には荒れ狂い、かつてはその濁流に家も田畑も飲み込まれることもしばしばあったという。その気ままな大河にへばりつくように道路が開かれ、谷の奥深く民家が散らばっている。平野らしきものは見えず、中山間地に代表的な、盆地の多い地形である。

ここも他の市町村に漏れなく、過疎と少子化、都会との経済格差にあえいでいる地域で、各企業の事業環境も厳しくその対応策として、郡内の生活を守るためと郡内を取巻く運送会社の経営悪化が手遅れになる前にと危機感を持ち、有志が集まって昭和58年3月「邑智トラック事業協同組合」が発足された。

年々物流量が減少する中、地域との連携を図りながら、組合員同士の相互協力や、研修会あるいは新しく許認可を取得するなど元気に事業活動を行っている当事業協同組合員7社の取組をまとめてみたい。

邑智郡・江津市桜江町の人口の推移

平成19年3月末（単位：人）

| | 平成19年度 | | | 平成18年度 | | |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 男子 | 女子 | 合計 | 男子 | 女子 | 合計 |
| 邑南町 | 6,012 | 6,848 | 12,860 | 6,111 | 6,966 | 13,077 |
| 美郷町 | 2,779 | 3,197 | 5,976 | 2,841 | 3,266 | 6,107 |
| 川本町 | 1,928 | 2,158 | 4,086 | 1,984 | 2,215 | 4,199 |
| 桜江町 | 1,553 | 1,815 | 3,368 | 1,589 | 1,841 | 3,430 |
| 合 計 | 12,272 | 14,018 | 26,290 | 12,525 | 14,288 | 26,813 |

(資料：各町民課)

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. はじめに | 72 |
| 2. 事業展開する邑智郡の概要と事業環境について | 72 |
| 3. 事業協同組合設立の経緯 | 74 |
| 4. 組合員の状況 | 74 |
| 5. 共同受注・共同配車事業への取組 | 75 |
| (1) 野菜等の集約から市場搬入の事業 | 75 |
| (2) 肥料・飼料の引取事業の実施 | 77 |
| (3) 自主流通米運送事業の獲得 | 78 |
| (4) 新事業、定期配送事業の取組み | 79 |
| (5) その他の事業 | 81 |
| ① 燃料スタンド及び物流用品の取扱い事業 | 81 |
| ② 高速料金別納制度 | 82 |
| (6) 官公需適格組合の認証と中小企業組合士の認定取得について | 83 |
| 6. 共同事業に対する問題と課題 | 83 |
| (1) 共同購買事業 | 83 |
| (2) 共同受注・共同配車事業 | 84 |
| 7. エコへの取組について | 84 |
| 8. 事務局の強化について | 85 |
| 9. おわりに | 86 |

- (参考資料)
- ・平成 18 年度中小企業白書
 - ・島根県中小企業団体中央会「研修資料」
 - ・財団法人中小企業情報化促進協会「組合事業運営論 1」
 - ・島根県運輸事業協同組合「研鑽資料」
 - ・インターネット YAHOO 地図情報より
 - ・邑智郡内各町民課より人口の推移
 - ・邑智郡内各町民課より人口の推移
 - ・文中の各固有名詞記載については了解済

1. はじめに

私が邑智トラック事業協同組合でお世話になることになったのは、末っ子の娘が保育園の年中組に通っていたころである。それまでは3人の子育てに追われ、落着いて仕事に従事することが出来なかった。少しずつ社会復帰していた旧石見町役場に臨時勤務していた頃、組合の役員様から勤めないかとのお話があり快諾したと記憶している。

当初、子供たちは幼く、高齢の義両親、義祖母とも同居でしたので、さまざまなことから組合と組合員の皆様にはご迷惑をおかけし又、配慮して頂いた。おかげさまで本年で12年目を迎え、幼かった娘も高校2年生になった。我が子の成長とともに勤務できたことが本当に有難く、感謝している。最近やっと生活も落ち着き、組合のために何か役に立ちたいと思っていた矢先、「中小企業組織活動懸賞レポート募集」のお知らせが送られてきた。長年勤務させて頂いたことの感謝を込めて、邑智トラック事業協同組合の事業活性化に取り組んでいる様子をまとめてみたいと思い応募した次第である。

邑智トラック事業協同組合は組合員7名の小さな組合であるが、組合員一丸となって地域の物流システム及び経済活動、それぞれの組合員の従業員、家族の生活を守るため、社会貢献を目指している事業協同組合である。

2. 事業展開する邑智郡の概要と事業環境について

当事業協同組合は島根県のほぼ真ん中に位置し、邑南町、美郷町、川本町、江津市桜町の旧邑智郡が拠点である。中国山地の山深く江川太郎で有名な江の川のうねりが東西の行く手を阻んでおり他町村へ出かけるには必ず峠を越え、江の川を渡り、山の稜線をいくつも回らなければならない。

いたって不便な印象を与えるが、邑南町は高速道路のインターが近く広島市内へは一時間で行くことが出来、香木の森公園をはじめ特産物は都会を中心にインターネットでも幅広く伝わっている。又、川本町は音響設備が充実しオーケストラなども招聘できる県下でも有名な「悠邑ふるさと会館」があり、音楽の町として中学生から大人まで吹奏楽に力を入れ、地域と共生しながら発展しているところである。カヌーの盛んな美郷町では国定公園の三瓶山を仰ぎ、世界遺産に登録された「石見银山」へは30分もあれば出かけられるなど、邑智郡全体としては都会と田舎がすぐ近くで共存している感がある。そして、桜江町は美術館、天体観測所などを設け、特別展などでは都

会の風を感じさせる町である。

とはいえ過疎地に変わりはなく、これといった製造業も少ないうえに農林業への依存が高く物流量は減少するばかりの中で、昨今の燃料の高騰が直接応え、我々は協力して活路を模索している。



(邑智郡邑南町・川本町・美郷町・江津市桜江町付近)



(島根県邑智郡付近)

3. 組合設立の経緯

邑智トラック事業協同組合は昭和 58 年 3 月 1 日設立し本年で 24 年を迎えることができた。業界の構造改善事業で指導があり、当時郡内運送業者 12 社の内、10 社で設立することができた。

設立当初、県の商工労働部の指導のもと「鉄は熱いうちに叩け」との、同部長の号令で関係団体への加入と高速道路別納事業、燃料の共同購入への参加を手始めとし、昭和 62 年には近代化資金の借入れにより共同給油所の設置を図り、当組合員による燃料の共同購入共同販売を計画、安価安定供給に努めることや、組合員に対し高速料金別納制度への加入を推奨し、高速料金の削減や物流用品の経費削減などを推進することが出来た。



(給油所設立当時 2 代目理事長と事務局：現理事長)

(給油中の車両)

経済や価値観の多様化が進む中で事業協同組合を設立したことによって組合員間の問題や悩みを多角的に考え、連携を密にし、又情報を共有することによって組合員の事業の成功はもとより、組合運営の活性化につながるように願っている。

4. 組合員の状況

設立当初は好景気も手伝って組合員各自、自らの顧客から仕事がありそれなりの会社運営もできていた。中には事業協同組合の必要性を感じられない組合員もいたが、バブル以後物流量は減少していき、小さな単位での事業が難しくなっている。物量も少量多頻度化し、ジャストインタイムが続き、加えて、大口の顧客である J A、全農、経済連などの合併なども盛んに行われ、以前のように「昔からの」という考え

では仕事の維持が出来なくなっている。運送コストによっては他県あるいは他町村の運送業者に荷物を奪われ、我が地域の物資を他町村の車輛が満載し、我が物顔で走って行く事が必定となってくる事が考えられる。

こういう危機感からも当事業協同組合の組合員は積極的に経営活動及び組合アピールを進め経営資質の充実を謀る事が余儀なくされている。又、組合員の中でも高齢化が進み後継者育成と急速な経済社会の変化に対応するため、各種研修会、講演などを通して常に経営活動への研究と開発が要求される。理事長及び役員をはじめとして各種研修会等に積極的に参加し情報収集に努めている状況である。

そのほか、景気低迷なども追い打ちをかけ10組合員の内3社が廃業脱退し、現在では7組合員で構成している厳しい状態である。

5. 共同受注・共同配車事業への取組

平成7年、郡内旧7カ町村合併に伴い当事業協同組合は組合員8名の内、7名により（廃業により現在6名）「事業委員会」を設立した。

これに伴い邑智郡邑南町矢上地内（旧邑智郡石見町）に石見事務所を開設し、常勤の事務員を置き、組合を窓口既存のA協同組合の物資の運送を共同受注、共同配車できる体制がスタートできた。

以前は、物流単価もバラバラで個々の組合員が個々の単価で荷物を運搬していたが、A協同組合の合併により郡内の輸送ルート、輸送単価の整備の要請があり理事長以下協議の結果、これに対応する事となった。組合員の中には以前より単価の高い荷物や反対に低い荷物が出来、難しい対応を迫られたが、何度となく協議を繰り返す事によって統一する事が出来た。

受注契約も各自が契約する、あるいは口約束で仕事を受けるなど不安定な状況だったが、共同受注として、邑智トラック事業協同組合とA協同組合が契約を結びA協同組合の組合員及びその他一般の顧客へ共同配車する事となり、事業協同組合の安定した経営の一端を確保するとともに、各組合員が行うべき煩雑な事務処理も組合で行う事で組合員への貢献が図られた。

（1）野菜等の集約から市場搬入の事業

A協同組合では館内の農産物をより多く生産出荷して頂く為、各支所ごとに個別の

運送業者に依頼し収集していたものを改め、農産物の収集から市場までを一本化するようにになった。このため平成11年4月より当事業協同組合が依頼を受け、野菜、花卉の収集運搬事業として受注出来たのである。

この事業は従来から何社もの当組合員が携わっており農家からの集荷時間、農産物の出荷量など色々な面で苦勞して輸送していた事業であるが、A協同組合より依頼があり車両の保冷化など輸送品質の同一化と向上のため一社での輸送を了承する事となった。



(野菜、花卉を運ぶ愛菜の郷号)



(夏場は農産物を満載して運送する)

農家の皆さんが心を込めて生産された野菜、花卉である。郡内は降雪も多く、道路幅が極端に狭い場所もあり、大雨が降れば濁流となる江の川を縫ってA協同組合の各支所を集荷に回らなければならない。その上、近隣の大規模な市場へ運送するには、時間の制限などもあり、新鮮な野菜をより多く早く運送するという、相反する課題を考慮しながらの気の置けない事業である。

であるからこそ、夏場と冬場では積荷の量に相当な違いがあるものかなりの売上となっている。車両も大型化、保冷化、され「愛菜の郷」の野菜として多くは広島方面に出荷されている。

(2) 肥料・飼料の引取事業の実施

同じく平成 11 年 4 月、肥料と飼料の生産工場への引取輸送を当事業協同組合で受注することができた。

長年、当地域の肥料引取は貨車輸送で行われていた。

昭和 58 年 3 月まで、現在の J R 三江線「因原駅」に貨車で到着していたものを、小型車両で引取配送していたのである。貨車輸送の廃止に伴い工場への引取に変わって行ったが、他業者での引取となって当組合員は全く携わることができなかつたのである。



(フレコンにて飼料の引取：配送センターに帰って来たところ)



(肥料の引取から帰って積荷を降ろしている)

この流れを変えて頂いたのが当時の島根県経済連とJA全農との合併を機にした、A協同組合の組合長様及び各担当者の方々のご尽力でした。この事業を受注できたことでA協同組合管内の全ての物流の一括共同受注となり、当組合員の安定収入とすることが出来たのである。

当事業協同組合としては窓口を一本化し受注オーダーに対し、組合員に平等に配車することを確認し合い、現在4社で事業を行っている。大型車でまとめて引取が出来るので燃料及び人件費も削減することが出来、効率よく事業が出来るようになったと大変喜んでいる。

又、飼料も同じである。年々鳥獣の肥育が減少、あるいは大手の経営家は直接飼料工場へ発注をし他業者での引取りをするなど、運送量は少なくなっているが、窓口を一本化できることにより、効率よく運送が出来るようになった。

企業のCMではないが郡内で生活する者としては地域ブランドを高めるのと、安全安心な食生活を送るために、自然も豊かで空気も水も汚染されていない、郡内の農産物や家畜の肥育が拡大され、肥料、飼料の運送が増えるように願っている。

(3) 自主流通米運送事業の獲得



(コシヒカリの販売開始式出席の様様)

ついで平成11年4月より「自主流通米」の運送を受注できる運びとなった。

当事業協同組合では、肥料、飼料の工場引取の受注が出来るようになったことで車両の大型化が整備された。之に伴い、肥料の引取時に、当地域から生産される農産物を持って行き、帰り荷に肥料を持ち帰る。と云う発想から、当地区生産の自主流通米の輸送についてもA協同組合のご尽力により一括受注をすることが出来たのである。

之によって行き帰りの荷物を運ぶ事が可能になり当組合員にとって輸送効率が計られ、経営の安定化につながった。

米の収穫期に運送が集中するが、中国地方はもとより、西は鹿児島、東は新潟、東京方面まで運送させて頂ける事業である。当事業協同組合及び受注先からの注意事項を繰り返し伝え、運転手にも荷物にも事故のないよう、積込から荷降ろしまで細心の

注意を払って業務に就いていると同時に、農家のみなさんが丹精込めて大切に作られた米であり、寒暖の差が激しく水のきれいな当地域ではとてもおいしい米が取れると私自身、自負しているところですが、その米を沢山の消費者のみなさんにお届けできる喜びとを合わせて運送させて頂いてる。



大変申し訳ないことではあるが今まで全く事故が無かったわけではない。だからこそ、何はともかく無事に着いたと報告を受けるまでは心がやすまらない時期である。

(左：島根県内産のJA米シール貼付け作業)



(自主流通米の積込作業)

フォークリフトの運転にも注意をはらっている)

(4) 新事業、定期配送事業の取組み

平成12年4月、A協同組合の各支所で扱っていた農業用資材の担当が廃止され、従

来のように各支所において何時でも必要なときに農業用資材の購入、配達を受けることが出来なくなった。それに代わりあらかじめ予約をして頂き定期的に配達することによって、対応することになったのである。

A協同組合の、既存の2カ所の倉庫を「配送センター」として発足、小型トラックでA協同組合の組合員及び一般客へ購入物資を定期配達するという、今までにない形態の事業である。



(左・右：配送センター出発式の模様
：写真掲載了解済み)



(配送センターの積み込み作業)

この新事業を当事業協同組合が受注する事が出来た。

A協同組合は邑南町（旧石見町、瑞穂町、羽須美村）と美郷町（旧大和村、邑智）それに川本町、江津市桜江町（旧邑智郡桜江町）に支所がある

当初は当組合員5社で2トントラック5台と、配送センターの倉庫管理として当事業協同組合の従業員を2名雇い入れ、

A協同組合の定期配送を全て支えることになった。「配送センター出発式」では当事業協同組合のトラックと運転手、それに倉庫管理の従業員が整列し無事故を誓い合い、新事業成功への支援と決意を固めたのである。

内訳は石見地区1台、瑞穂地区1台、川本・桜江地区1台、邑智地区1台、羽須美・大和地区1台である。之により農業用物流が減少する中で、新たに経営がひらかれ、

当事業協同組合及び組合員の安定した経営を目指す一端とすることができ、大いに発展することができた。

それぞれの担当地域から配送センター迄の距離の遠近、配達地域の戸数及び配達頻度、距離の違い、降雪の多少など様々な問題点が浮かび上がってきたがその都度、「事業委員会」を開催し、協議し解決してきた。現在はフリーの3tトラック1台が追加され、合計6台とA協同組合の配送センターが本所だけに合理化されたため、倉庫管理の従業員は1名となっている。

この事業は本年で7年目をむかえ質、量とも当事業協同組合及び組合員の事業経営においても重要な位置を占めているとともに、A協同組合と各農家及び、各家庭、企業を結ぶ重要な事業だと自負している。いわばA協同組合職員の代理のようなものである。(と、勝手に思っている)又、都会ほどではないにしても犯罪が進む世の中である。特に高齢化と過疎が進む当地域においては当事業協同組合のトラックが毎日郡内を巡回のように走ることは、邑智郡内の経済活動に不可欠であり住民の安心と安全を守るため、生活を守るため大事な事業だと自覚している。従事している6人のドライバーにも声かけ運動などを奨励し、安全安心丁寧な配達を心がけることとしている。子供たちの学校やクラブ活動の行きかえり、あるいは1人暮らしのお年寄りの方には明るく声をかけるようにし、支え合うことによって事故の無いように願っている。



(邑智トラックの定期配送車)



(出発前のチェックを入念に)

(5) その他の事業

① 燃料スタンド及び物流用品の取扱い事業

昭和62年に設置した共同給油所は20年を過ぎようとしている。施設は老朽化が



(老朽化した洗車機及び給油機たち)

進み、数年来の燃料価格の大幅な高騰、環境、安全規制強化など諸問題を受け厳しい状況にある。軽油価格は以前、軽油税込みで 64 円程度だったものが数年前から 95 円をはるかに超え現在も高止まりの乱高下を続けており、当組合員に少しでも安価で供給するためにも当事業協同組合の利益は全く考えられず、双方とも負担は増大するばかりである。

大変厳しい状況ではあるが、当事業協同組合及び組合員の事業経営において多少なりとも経費節減になるよう、関係先や情報誌など活用し安価安定供給に努めている。また、タイヤ等の自動車用品や物流用品なども、より安価良品の供給に配慮し提供しているところである。

昨今の厳しい経営環境下では老朽化が進んでいるとはいえ、燃料スタンドを保有していることは当組合員にとって大きな励みとなっている。

② 高速料金別納制度

高速料金の別納制度加入による高速料金の割引料は、燃料価格の高騰が運賃に転嫁されない状態を何とかしのぐ一端となっている。

| E T Cカード`借受枚数 | 平成 19 年 3 月末 | 平成 18 年 3 月末 | % |
|-----------------|--------------|--------------|------|
| 6 社 E T Cカード`枚数 | 46 枚 | 42 枚 | 109% |

当事業協同組合の組合員は運送コストを多少なりとも抑えるため、極力高速道路を利用しないで運転手、積荷にもリスクのある一般道路を走っていたが、運送時間の短縮によるメリットである、積荷の保護、運転手の健康面、労働時間の改革などのため、あるいは荷主の要望により、時として高速道路の利用も必要な状況が起こっており、高速料金の更なる大幅な値下げを望んでいる。

平成 16 年 10 月より始まった E T Cコーポレートカードの推進も定着し、カード管理に十分配慮しなければならない。

(6) 官公需適格組合の認証と中小企業組合士の認定取得について

当事業協同組合は中山間地域での事業で第一次産業の物品を主として運ぶ輸送軍団であるが、現在当地域でも高齢化により生産活動は減少している。新たにK I T事業に入会するなどして都市部へと物流を求めて行ってみても、現在の2年続きの燃料高騰、高額な高速料金を支払っては、現状の運賃収入では利益どころか車を走らせるだけ経営が厳しくなる様な状態だが、社員の生活だけはなんとか守りたいと苦慮しているところである。

先行きを懸念していたところ、島根県中小企業団体中央会の指導もあり、地元へ活路を求めるため平成18年「官公需適格組合」の認可取得をした。官公需の認証取得に当っては、中央会の担当者の方に遠くまで足を運んで頂き、何度もご指導頂きながら、やっと取得出来た。大変お世話になり、組合員一同、有難く感謝致して居るところである。

これにより、企業だけでなく、公共事業に対しても自信を持って営業する事ができ、組合員の事業の拡充になるよう幅広く活動が出来る様になった。早速郡内役場へ入札申請を提出したところである。

また私事ではあるが昨年12月、組合検定試験に挑戦し中小企業団体中央会の皆様には講習会を計画して頂くなど大変応援していただいた。おかげさまで中小企業組合士として認定して頂くことが出来、大変有り難く思っている。学習したことを忘れないよう、様々な日々の状況に問題意識を持って勤務するように心がけ、関係団体の皆様に御指導を仰ぎながら、当事業協同組合の拡充および組合員の事業の安定のため努力したいと思っている。

6. 共同事業に対する問題と課題

(1) 共同購買事業

燃料の協同購入においては依然として仕入金額の高止まりが続いている。地球温暖化によるCO₂の削減、排ガス規制などの環境の面でも厳しい対応が迫られているが、バイオディーゼル燃料の利用やその他の燃料代替品も都市部ならでのことで、邑智郡内ではまだまだ普及されておらず、当事業協同組合及び組合員は厳しい運営が余儀なくされている。少しでも安い燃料の確保を模索しながら現在の状況を乗り越えていかなければならない。又自動車用品、物流用品の仕入においても、更に経費の削減につ

ながらよう、より良品を安価安定供給する事によってこの難局を乗り越えて行かなければならないと考えている。

(2) 共同受注・共同配車事業

当事業協同組合は、組合員の利益を優先しなければならないのと同時に地元企業地域社会を物流の面で支え、地域の経済活動、地方の生活を支える重要な役割を担っていると確信しているが、昨今のように企業の合理化、経費の節減、環境対策、少子化問題また、安全運転、車輛管理等に益々経費が増大するなど問題が山積する中で、当事業協同組合及び組合員の事業経営は伸び悩み、経営環境の力強い打開策が望まれる。

今後も燃料の高騰を運賃に転嫁出来ない状態がつづくと考えられる上に、都会と地方の格差が広がるなか地方の小さな企業が昨今の煩雑で困難な対応に追われ、事業運営に支障をきたす事の無いよう、当事業協同組合が窓口となって組合員の事業活動を補佐し、積極的な事業拡大が出来るよう支援していかなければならない。

又、事業経営が厳しい中では配車の面でも組合員の規模や社員、車輛数などから単純に受注量、配車の分配をして良いのかとか、いわゆる「昔から自分のところがやっていた」と言った意見が出てくる場合もあるだろう。新しい事業活動を展開するにも組合員が心を一つにして取組まなければ、当事業協同組合の事業はもとより組合員の事業の成功もおぼつかないと考えられる。後継の組合青年部も育っていることから、目先の状況にとらわれず、「権利と義務の平等」の観点から適切に対処していくことが大事である。

7. エコへの取組について

地球温暖化は、CO₂などの排出量が増加したことが大きな原因となっていると言われている。軽油燃料などを大量に消費しなければならない当事業協同組合でも、事業活動と地球環境保全を両立し、自然豊かで空気や水もきれいな邑智郡及び江津市桜江町に事業展開し、又全国各地でも物資を搬入搬出する物流企業として、できる限り可能な範囲で環境汚染防止に努めようと努力をしている。

平成17年4月に閣議決定された「京都議定書目標達成計画」において「環境に配慮した自動車使用の促進」が施策の一つとして位置づけられている。又、平成18年度にはエコドライブ普及連絡会（警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省から構成）に

において「エコドライブ普及・推進アクションプラン」が策定され、関係団体に積極的に推進して頂いている。

車輛を新規に購入する場合は排出ガス基準に適合した車輛の購入、あるいは車輛の整備を万全にし、排出ガスや騒音の減少、事務方では冷暖房の自粛、事務用紙の使用料の削減、不要になった帳簿類を「エコリサイクル便」で処理するなど、計画、あるいは、すでに実行している項目も考慮しながら温暖化防止に向け積極的に推進していきたい。

又、「島根県トラック協会」ではトラックメーカーが行う、エコドライブ講習カリキュラム基準に適合している「エコドライブ講習会」の受講を広めており、当事業協同組合の全ての組合員が入会していることから、之を推進し、燃料の消費量を減少させるなどおおいに活用して行く方針である。各組合員が行う事業としても、産業廃棄物運搬業許認可証の取得、同事業の受注など環境対策に関っているところである。

8. 事務局の強化について



(災害防止講習会出席の様様)

昨今の景気上昇気分は当地域においては感じられず、不況の長期化、競争の激化、規制緩和等に伴う業界構造の厳しい変化の中で組合員の経営安定のため問題の提示、打開策の提案、改革と高度化が求められており、事務局の役割は多岐にわたり、その能力の向上が求められている。



(安全運転講習会出席の様様)

新事業の拡大、拡充においても長期、短期の資金の借入など考慮しなければならない。また最近叫ばれている新連携を支援するための「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律」など、今この時期、事業協同組合の事業運営において何が必要か、何を望まれているのかを考え、実践、行動に移し当事業協同組合及び組合員の事業活動に役立つように努めなければならない。

そのためにも、近年論議されている道路特定財源の一般財源化反対運動に参加するなど、高速料

金の引下げ、並びに自動車関係諸税の軽減の拡充を強く働きかけ、行方を見守って行きたい。

研修会等も、昨年は山口県のタイヤ再生工場、本年は倉敷市水島にある肥料、飼料の引取工場へと研修会及び見学会を計画実行できた。どの企業でもご多用中にも関わらず丁寧に講習、見学と案内して頂き一同、大変感激したところである。

タイヤ工場では新しい知識を会得し、安全への配慮が経費節減にもつながることを再認識し、経費節減案の一端となった。又肥料・飼料の工場見学では製造側の製品に対する「想い」や、製造過程また、当事業協同組合の運転手がどういう流れで、どういった環境で製品を積込、運送するのかなど見学することができ、有意義な視察研修会となっている。

今後も、当事業協同組合の組合員それぞれの事業規模の差や事業内容の多様化が見られ、結成当時とは異なる問題や要求も出てくる事が予想され、組合員間の意見や要望の調整を計る必要が多々あるだろう。共同で行うことの如何に効果的であるかを組合員一同が理解していくことや、保守的な考えにとらわれず、個々の知識を高めるためにも研修会など、積極的に進めていかなければならない。



(タイヤ再生工場の研修会)



(肥料工場の研修会)

9. おわりに

邑智トラック事業協同組合は4年前の秋、各方面から多数ご出席頂いて、創立20周年記念式典を開催することが出来た。

組合設立当初の苦心を思うと今日まで組合事業を続けて来られたのは、各方面の関

係者の方々の暖かいご指導や、代々の理事長初め役員の皆様、又組合員の皆様の日頃からのご協力ご支援の賜物であると思っている。ゆえに、これからも邑智郡で唯一の運送事業の組合として誇りを持ち組合員が一丸となって頑張っていけると確信している。



(盛大に行われた創立20周年記念式典)

最大の事業柱である共同受注、共同配送、共同購買などを益々拡充し、問題が起これば、何度も協議をしながら都市部の企業にはない「みんなが顔見知り」という地域の特性を活かした、「安心安全丁寧な仕事振り」を目指し組合員が一丸となって励まし合い頑張っているからである。

また他町村に出かけて運送する場合でも、お互いが邑智郡の物流の代表あるいは、企業の代理であるという自覚を持って従事するよう心がけている。

物流のことなら、「邑智トラック事業協同組合でなければ！」と言われるようになりたいと決意している。